

議題 「スポーツマンシップに対する深い理解」 H25.5.9(木)

第1章 『 尊重 (Respect) 』

【議論 1】

テニスは基本、セルフジャッジですので、ネットのこちら側に関しては自分が責任をもって対応し、ネットの向こう側に関しては相手が責任をもって対応することになっていますね。では、以下のケースに関してどのように考えますか？

Q ネットの向こう側で起こったことに関して、自分がコントロールすることはできますか？

Q ネットの向こう側のジャッジに対して、クレームをつけることで問題は解決しますか？

Q ネットの向こう側の選手の態度に対して、自分がコントロールすることはできますか？

.....
ここで、新たな問題が出ました。

Q 自分がコントロールできることとは、一体何でしょう？

「自分の考え方(意思)」と「それに基づく行動」ですね。
ここには「自分のコートのジャッジ」ももちろん含まれます。

Q では、逆に自分ではコントロールできないこととは、何でしょう？

「相手の考え方(意思)」と「それに基づく行動」ということになりますね。

ネットの向こう側で起きていることのすべてに関して、私たちにはコントロールすることはできませんからね。

例えば、相手の態度やミスジャッジに対してクレームをつけることはできても、相手の考え方やジャッジを変えることはできませんよね。

コントロールできることとできないことに対して明確にラインを引くというのではないのでしょうか！
こうすることで、自分が行動するべきこと(プレー)に集中することができますよね。

この意思に基づいて行動すれば、どのような場面でも“フェアプレーの精神”と“正々堂々とした潔い態度”をとることができそうですね！

【議論 2】

**Q どのような場面でも“フェアプレーの精神”と“正々堂々とした潔い態度”をとろうと
考えているのは、自分だけでしょうか？**

.....

すべてのプレイヤーが、このように考えていると信じたいですね。

ということは、私たちがまずやるべきことは、相手を信じることじゃないでしょうか。

何が起ころうとも、相手を信じ、相手の考えを尊重する気持ちを持つことが、スポーツの原点でもありますよね。

【議論 3】

しかし、時として信じがたい状況に出会う時がありますよね。

Q 相手の故意的で明らかなミスジャッジに対して、あなたはどのように考えますか？

Q 相手の威圧的な態度に対して、あなたはどのように考えますか？

Q このような時、あなたはどのように対応しますか？

.....

これは、とても悲しいですね。

しかし、現実にありますよね、こういうことって……

どんなに不利な場面でも、周りにどんなに不正があったとしても、私たちは正々堂々とした潔い態度をとり続けたいですね。

自分の外側で起きていることに集中しないで、自分の内側の“善の意識”に集中したいです。

相手の悪態に対して威嚇したり怒ったりせずに、そんな中でも自分の意思を強く持ち、正しく行動するようにしたいです。

もしその試合に負けたとしても、この意思と行動はスポーツマンとして正しく評価されますね。

負けても後悔する必要はないですね。この意思と行動を積み重ねることが、真のスポーツマンとしての行動だと思いますから。

“本当の強さ”とは、そういうものではないでしょうか。

このような態度は、必ず周りに良い影響を与えますよね。日本のスポーツ界にとって“良いお手本”となれるように、自分の意思と行動に対して日頃から責任を持てるようにしていきます！

第2章 『 マリーシアは必要か 』

【議論】

サッカー用語で「マリーシア」(ポルトガル語)という言葉があります。日本語では「ずるがしこい」という意味になります。ドリブルしている選手が相手のペナルティーエリア内で、わざと転んでファウルをもらおうとするプレーです。

Q スポーツを行う上で、この「マリーシア」は必要でしょうか？

.....
なぜマリーシアが存在するのでしょうか。

「多少、汚いこともやらなければ勝てない」という感性からではないでしょうか。

良くない行為ですが、「みんなやってるから」というくらいにしか考えていませんでした。

近代スポーツでは、ファウルプレーとフェアプレーとの境が曖昧になっていませんか。このことは、危惧すべき現象ですよ。

「ファウルをするなら、その程度を考える」という感性が横行している現状がありますよね。

Q あらゆるスポーツにおいて、世界で一流と認められている選手たちは、このような感性でスポーツをしているのでしょうか。

トップアスリートは、一切していないと思います。フェアプレーに徹しています。

“フェアプレーの精神”や“ルールの尊重”という観点から見れば、「いけないことは、いけない」はズです！「ファウルはファウル」です！グレーゾーンなんて存在しません！

選手自身が、自分自身の行為をもっともっと厳しくジャッジする視点を持つべきではないでしょうか。

プレー中、「自分を厳しく見つめる視点を持てるか」が課題ですね！

第3章 『 真のスポーツマンが恐れるもの 』

【議論】

真のスポーツマンは、心も体も鍛え抜かれた人のことを言います。そこで、最後の議題です。

Q 真のスポーツマンが恐れるものとは、一体何でしょうか？

.....
真のスポーツマンが大切にしていることとは何でしょうか？

- ・社会のルールやマナーを尊重しています。
- ・規則正しい生活習慣を身につけています。
- ・勝つための努力を常に怠りません。
- ・負けを認め、相手を称え、気持ちを切り替えてすぐに次の準備を始めることができます。
- ・周りを気遣う心の広さ・優しさを身につけています。

これらの感性は、チャンピオンになってから身に付いたものではありませんよね。これらを身につけているから、チャンピオンになれるのですよね。

逆にこれらの感性を身につけていない中でチャンピオン(勝者)になることに、何の意味があるのでしょうか。

ルールやマナーを軽視したり、規則正しい生活ができていなかったり、練習不足だったり、自分勝手な行動をしている中で結果をだすことは、とても難しいということを、真のスポーツマンは心得ていますね。

「自分を最も正しく評価できるのは、自分である」ということも、理解できていますね。

自分の中のどこかに納得がいかない点がひとつでもあると、それが心残りとなって、重要な場面での「心のブレ」の原因になりかねませんよね。

真のスポーツマンが恐れるものとは、自分の心のブレではないでしょうか！

“自分の心がブレてしまうような生き方(判断・行動)をしないこと”、“それを貫く意志の強さを持つこと”が、最も大切にするべき感性ではないでしょうか！

この感性こそ、「スポーツマンシップ」ということではないでしょうか！